

こんにちは。

ついに8か月のオーストラリア留学が終わり、先日日本に帰ってきました。振り返ってみれば本当にあっという間で、8か月も異国の地で暮らしていたことがいまだに信じられません。それでも、ここには書ききれないほどのたくさんの発見や学びを得ることができましたし、様々な出自や考え方を持つ人々と知り合えたことは一生の財産になると思います。

11月は1学年の終わりの時期でしたが、定期テストのない学校だったのであまり忙しくはありませんでした。留学生活最後の登校日は幸運にも学年最後の授業日でその日にはもう課題などは全て終わっていたので、午前はクラスメイトと特別なアクティビティをしたり来年来る新入生のためにメッセージを書いたりして、午後はフィルムフェスティバルという、みんなで動画を見る会がありました。2年に1回開催されるイベントで、その2年間で生徒や先生が授業内や学校行事の中、校外学習などで作成した動画を鑑賞します。最後は投票をもとにいくつか賞が授与されて、1年最後ということもありそこそこ大きなイベントでした。私が授業中に課題として作り1役を担当したショートドラマもノミネートされていました。セリフは客観的に聞くとまだ英語が拙いなあと思うのですが、それでも日本にいたときは何かを演じることやカメラの前で喋ることなど到底できなかったのも、それを思えば留学を通して自分を人前に出すことにためらいを感じにくくなったのかもしれない。

私はこの長期留学でオーストラリアという多文化な社会で日本がどう受け入れられているか見ることで、日本人としての誇りを持つようになりました。私は中学1年から4年間茶道部に所属しておりお点前や茶道の精神など基本的なことはわかっていたので、留学中も積極的に茶道のイベントに参加しました。日本文化を広めるためのイベントなどでボランティアをしたこともありました。また11月最後の週には、小さなお別れ会としてクラスメイトと先生が私のテーブル茶道を披露する機会をくれました。アデレードの人々が茶道などの日本文化に興味を持ってくれたことがうれしく、また私にとっても日本文化の良さを再確認する良い経験となりました。

私はこの留学が初めて日本を出て他の国に行く機会で、オーストラリアでの生活に慣れてきたころ「多文化社会とはこういうことなのか」と感銘を受けたことを覚えています。それほどにオーストラリアでは想像より様々な用紙や考え方を持つ人々が住んでおり、また複雑な文化的背景を持つ人も多かったのです。その中であって、私も「留学生だから」と特異な目で見られることは全くなく、ありのままの自分を出せる雰囲気が整っていました。本当の多様性とは、違いを受け入れるというよりは違いを気にしなくなることなのかもしれないと気づきました。

私はもともと進路を決めること、自分がやりたいことを見つけるためにこのプログラムで留学することを決めました。しかしいざ留学してみると自分の将来は無数の可能性があることを知り、また行き当たりばったりでもいいのだと気づきました。この次世代リーダー育成道場で得た経験を将来に活かし、たくさんの新しいことに挑戦していきたいです。

白鷗高校 14期生 次世代リーダー10期生 K・M